原高同窓會々報

題字は元同窓会会長門馬直孝氏

3月1日　金曜日
平成31年（2019年）

発行所
福島県立原町高等学校
同窓会
福島県南相馬市原町区西町3－380
電話　(0244) 23－6196
印刷所　有限会社ライト印刷

祝　ご卒業

おおいなる力みなぎる一五八名
本日晴れて卒業

本日、福島県立原町高等学校七十一回卒業証書授与式が挙行されます。新たに会員となる百五十八名のご活躍を心からお祈りします。

福島オリンピック

同窓会長　杉　昭重（二十二回卒）

第七十一回百五十八名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これまでの蛍雪の功成り、人生の新たなステージに進まれる皆さんの活躍を期待するとともに、原町高校同窓生となられました皆様を大いに歓迎致します。

さて来年は二回目の東京オリンピックが開催されます。一回目は一九六四年で、私は中学一年生、日本選手の活躍にとても感動したことを覚えています。特に福島県出身の円谷幸吉選手のマラソン銅メダルの快走には心躍る思いでした。そのオリンピックがまたやってきます。

今度のオリンピックは復興五輪の意味合いのある大会で聖火リレーも競技も（ソフトボールが開会式の二日前の七月二十二日から）福島からスタートします。まさに福島オリンピックといえるもので、福島の復興を世界に発信する絶好の機会です。福島でオリンピックが開催されるという好機を生かし、私たち一人一人が、特に青春という多感な時期に、平和の祭典オリンピックに関わりを持つというのは貴重な経験だと思います。自分のできる範囲でオリンピックを盛り上げていってほしいと思います。

同窓生の中には円谷選手のようにマラソンでオリンピックを目指す今井正人選手（五十五回卒）がいます。福島オリンピックを更に盛り上げるためにも、同窓会として今井選手を全力で応援していきたいと思います。

円谷選手や今井選手に影響を与えた人で日本マラソンの父と称される金栗四三さんのエピソードにこういうのがあります。世界記録保持者で日本人最初のマラソン代表として臨んだ第五回ストックホルム大会では、暑さのため多くの選手が日射病で途中棄権する中、金栗選手も日射病で倒れ、近くの農家で介抱され、気づいた翌日にはレースは終了していました。金栗選手は失意のうちに帰国しました。

一九六七年、金栗さんの元にストックホルムオリンピック五十五周年記念式典を企画したスウェーデンオリンピック委員会から一通の手紙が届きます。「金栗四三様、あなたの記録は行方不明となっています。是非ゴールすることを要請します。」金栗さんは要請を受け、競技場内に設けられたゴールテープを切りました。「金栗選手ただいまゴールイン。時間五十四年八か月六日三十二分二十秒三、これをもって第五回ストックホルムオリンピック大会の全日程を終了します。」と粋なアナウンスがされました。

原町高校は今年十月十二日に創立八十周年記念式典を行います。多くの皆様の参加をお待ちいたしております。

伝統を受け継いで

校長　佐川尚史

本日、百五十八名の卒業生が学び舎を巣立ちます。今後は、同窓生の一員として、母校を温かく応援してくれるものと期待しています。

私は、原高に赴任して三年になりますが、生徒たちの勉強に部活動に一生懸命頑張る姿にはいつも感心させられています。また、生徒会活動や学校行事などで主体性を発揮できるのも素晴らしい特徴だと思います。まさに、これが、伝統の力なのでしょう。

その成果のあらわれとして、進学の面では、昨年度、国公立大学合格者数が、震災以降では、最も多くなり、震災以前と比較しても遜色ない状態です。加えて、県立医大医学部に二名合格するなど、内容的にも充実しています。今年度は、さらによい成果をあげてくれるものと期待しています。

また、部活動でも、箏曲部と美術部の全国高文祭出場、吹奏楽部の三年連続東日本大会出場などの活躍がありました。運動部でも、剣道、バレー、ソフトテニスが県大会上位に進出するなど、文武両道を具現化しています。

さて、相双地区の高校においては、東日本大震災・原発事故に伴う急激な生徒数の減少によって、休校、または、学級数を大きく減らしています。少子化の進展もあり、原高でも、何とか四学級を維持している状態です。同窓生の方々からは、「昔は、十学級あったのだが・・」という言葉をよくお聞きしますが、何ともしがたいものがあります。学校規模の縮小は、学校の活力、さらには、地域の活力の低下につながるものであり、その意味では、教育における復興は、これからの重要課題です。

このことは、全県的な喫緊の課題でもあります。そのため、県教委では、今後十年を見据えた「県立高等学校改革基本計画」を策定し、統廃合、再編を進めるとともに、各学校の地域での役割や特色の明確化を図ろうとしています。その中にあって、原高は、これまで同様、地域の進学拠点校としての役割を担うことが求められています。それに応えるべく、さらに、授業の質の向上と進学指導の充実を図り、各分野のリーダーとして活躍し、地域の発展に貢献する人材の育成を図ってまいりたいと考えます。

今、教育をめぐる様々な変革の嵐が吹き荒れています。その変化に柔軟に対応しながらも、原高のよき伝統をしっかり受け継いでまいりたいと思います。

卒業生の皆さんには、原高の卒業生であることに誇りを持ち、それぞれの道をしっかりと歩んでいってほしいと思います。

原町高等学校同窓会総会
2019年8月3日(土)
総会17：00～　懇親会18：00～
JR常磐線原ノ町駅前『ホテルラフィーヌ』
☆参加を希望される方は、下記までご連絡ください。
お問合せ　原町高等学校同窓会事務局
TEL 0244(23)6196　FAX 0244(23)7909
harakou.dousoukai@gmail.com